

2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 1 月 20 日作成)

小委員会名	都市環境デザイン小委員会	主 査 名：浅輪貴史 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：吉田 聡
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>顕在化する温暖化影響と気候変動適応策に向けた研究深化と社会実装は喫緊の課題である。建築分野に対しても、低炭素社会づくり、温暖化適応社会の構築をはじめとして多くの社会的貢献が求められている。</p> <p>本小委員会は、都市環境工学分野から貢献方法を議論し、これまでの研究の蓄積を再整理するとともに、新たに取り組むべき課題、具体的な都市デザインに展開可能な指針のあり方等についての議論を促すことを目的とする。</p> <p>初年度：都市設備分野を中心に最新情報の共有、研究の蓄積の再整理、及び実例のスタディを通じて、都市環境・都市設備分野からの貢献方法を議論する。 「第 9 回都市環境デザインフォーラム」を企画し、実施する。</p> <p>2 年度：都市環境分野を中心に研究の蓄積を都市環境デザインへつなげる方法について議論する。また、新たに取り組むべき課題、具体的な都市デザインに展開可能な指針のあり方等について議論する 「第 10 回都市環境デザインフォーラム」を企画し、実施する。</p> <p>3 年度：これまでの 10 回を振り返り、環境工学分野からの貢献、情報発信のあり方などを再検討し、今後の展開について議論を行う。 「第 11 回都市環境デザインフォーラム」を企画し、実施する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：浅輪貴史 (東京工業大学) 幹事：熊倉永子 (国土技術総合政策研究所) 委員：川久保俊 (法政大学)、三坂育正 (日本工業大学)、竹林英樹 (神戸大学)、吉田聡 (横浜国立大学)、田中貴宏 (広島大学)、赤川宏之 (大林組)、原英嗣 (国土館大学)、小柳秀光 (北海学園大学)、増田幸宏 (芝浦工業大学)、平山由佳理 (工学院大学)、佐々木澄 (清水建設)、宮崎ひろ志 (関西大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	97,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第 10 回都市環境デザインフォーラム「都市環境・都市設備の課題と展望 — これまでの 10 年とこれからの 10 年」(2023 年 2 月 24 日 (金) 開催) 『同名資料』 参加者数 125 名
大会研究集会	

<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会を3回開催し(いずれもオンライン開催)、都市環境デザインフォーラムのこれまでの9回を振り返り、環境工学分野からの貢献、情報発信のあり方などを再検討した。 2. 都市環境デザインフォーラムの企画内容についての提案と、開催の取りまとめを行った。今回は、10回目であるため、記念的な都市環境デザインフォーラムとすべく、都市環境・都市設備のこれまでの振り返りと今後の展望について総合的に議論するよう、企画・開催を行うことができた。 3. 都市環境デザインフォーラムの開催を通じて、都市環境・都市設備の研究の蓄積を都市環境デザインへつなげる方法について議論をし、その内容を取りまとめた。 4. また、次年度の都市環境デザインフォーラムの企画策定に向けた議論を開始した。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小委員会をオンライン開催としているため、首都圏以外の委員には参加がしやすくなった一方、特にデザインフォーラムの企画に際して、各委員の持っている情報や最新の知見を交換することが、やや難しいと感じた。この点は、今後、ハイブリッドの開催も含めて検討してゆく必要がある。

小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A B C D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>2020 年度は、当初計画をしていた「都市環境デザインフォーラム」がコロナ禍の影響で開催できなかったが、公開合同委員会「暑熱環境と人体熱ストレス評価」を新たに企画して開催した。熱環境運営委員会とのはじめての合同開催であり、オンラインではあったが活発な議論と意見交換を行うことができた。これにより、運営委員会の垣根を超えた活動や議論のきっかけを得た。</p> <p>2021 年度は、第 9 回都市環境デザインフォーラム「ニューノーマルにおける都市環境・都市設備の展望 -DX の推進に注目して-」をオンライン開催し、ニューノーマル（ポストコロナ）の変化が加速する時代において都市環境・都市設備に求められる役割とは何かを、都市のデジタル情報化（DX）の流れを踏まえ総合的に議論した。オンライン開催であったが、今話題の最先端の内容であり、多くの方々に参加いただくことができた。</p> <p>2022 年度は、第 10 回都市環境デザインフォーラム「都市環境・都市設備の課題と展望 これまでの 10 年とこれらの 10 年」を開催し、これまでの 10 年間の都市環境・都市設備に関する研究や社会動向を振り返るとともに、これからの 10 年に向けた展望を総合的に議論した。10 回目の記念フォーラムということで、例年以上に企画と準備に力を入れ、基調講演の選定・依頼や、過去の運営委員会主査の全員が登壇をする PD など、充実した内容となった。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。